

大学 外国語学部渡部ゼミが「審査員賞」3年連続入賞の快挙達成

11月13日に開催された「第62回日本学生経済ゼミナール関東部大会」の「プレゼンテーション部門」において、外国語学部の渡部吉昭教授のゼミナールに所属する3年生6名からなる「8期Team East」が「審査員賞」を受賞しました。渡部ゼミナールは、一昨年・昨年の「優秀賞」に続き、3年連続受賞の快挙となります。

今回の「プレゼンテーション部門」には、各大学から119チームがエントリーし、10月に実施された予選会を突破した10チームが11月の本選に臨みました。本大会では、企業の経営者層の方々や大学教員が審査員を務めています。

「8期Team East」は、藤村冴菜さん(リーダー)、江泉伽耶さん、久慈陽香さん、佐藤七海さん、萩原翔梧さん、肥後美沙希さんの6名で「ドナーミルク」をテーマに発表しました。ドナーミルクとは、早産など、なんらかの理由で母乳が出ない、または出ても赤ちゃんにあげることが困難な場合などに、母親が母乳をあげられるようになるまでの「つなぎ」として、別の方から寄付された母乳のことです。しかし、このドナーミルクの使用率が現状低いことに学生は着目し、課題提起と普及させるための解決策の提案を目的に活動を行って来ました。結婚前の若者を対象としたセミナー(計2回)を開催。救われた命を実感する場として、母乳提供者と新生児を持つご両親の交流会も初開催しました。そして、ドナーミルク使用の年会費確保に向けて、110社にアプローチし、賛同企業9社も獲得しました。さらには、他大学と連携し、学生団体「Save The Baby (Saby)」の設立。ドナーミルクハンドブックの普及などにも尽力してきました。

学生たちは今回の研究を通し、母乳提供者・母乳バンク・医師・大学教授・ハイリスク新生児のご両親など、ドナーミルクに関わる全てのステークホルダーを「つなぎ」ため、小さく生まれた赤ちゃんの命と健康を守るためのドナーミルクの普及に繋がる研究を継続していく予定です。

受賞チームリーダーコメント 藤村冴菜(外国語学部3年)

私たちはこの発表に向けて、多くの方にご協力していただき、今回「審査員賞」をいただくことができました。その過程で多くを経験し、多くを学びました。結果も大切ですが、ここに至るまでに得た全てを忘れずに、能力を更に磨いていく事がより大切だと思います。今後も目標に向けて邁進してまいります。



「審査員賞」受賞学生6名と渡部教授(右)

高校 写真部 2年生がフォトグランプリ2022で「入選」

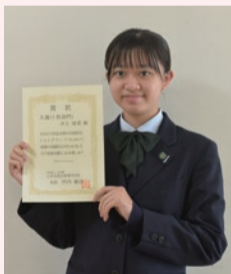
9月24日、日本写真芸術専門学校主催の「第9回高校生フォトグランプリ2022」の結果発表が行われ、井上晴菜さん(2梅)が1枚部門の作品名「明日へ向かって」において、見事「入選」いたしました。この写真のモデルは井上さんの同級生で、共同制作になります。

このフォトグランプリ2022は、写真家・カメラマンの登竜門コンテストとして、キヤノンマーケティングジャパン株式会社協賛のもと、写真家による厳正な審査が行われ、受賞者が選出されます。

写真部からコンテストへの入賞作品が出るのは久々になります。今後も多くの写真をコンテストなどに展覧していきたいと思っております。

生徒コメント 井上晴菜(2梅)

誰かがこの写真を見て「明日へ向かって走り出せる、頑張れる」と思ってくれたら嬉しいです。これからも誰かが笑顔でいられるような写真を撮っていききたいと思います!!



井上さん



入選作品「明日へ向かって」

高校 アーチェリー部 1年生が都高体連新人戦「優勝」

10月16日、都高体連アーチェリー専門部主催の新人戦が開催され、吉住そらさん(1梅)が「優勝」を果たしました。

高校アーチェリー部は、創部33年目になります。近年はCOVID-19の影響で廃部の危機もありましたが、今年度は1年生が7名入部し、3年ぶりに夏合宿を実施するなど、活発な活動を再開しました。

今回の大会は、都高体連に加盟する高校1年生で、中学校時代のアーチェリー未経験者だけが参加できる大会です。30メートルの距離からの、36射360点満点の点数で競います。吉住さんの記録281点は、30メートル先からB5の紙に36本すべての矢を的中させるくらいイメージです。

今回の成績は、2011年の沖縄インターハイ出場以来の快挙です。今後は2年後の関東大会出場を目指して練習に励みます。



吉住さん(左から3番目)と部員メンバー

高校 サッカー部 関東秋季大会「3位入賞」

高校サッカー部は、10月22日から開幕した「第18回関東高校女子サッカー秋季大会」で、「3位入賞」を果たしました。

1回戦、2回戦と勝ち進み、準決勝では関東大会常連校の流通経済大学付属柏高校を相手に0-1で惜しくも敗れる結果となりました。そして迎えた10月30日の八千代松陰高校との3位決定戦では、3-2で勝利し、大会終了後の集合写真も笑顔で撮影することができました。文女祭と時期が重なりましたが、多くの方々のサポートのおかげで、3位という結果を残すことができました。



「3位入賞」を果たした生徒たち

GREEN SPIRITS



新しい経営学部の
学びの中心は
デザイン思考

経営学部長・教授 新田都志子

2023年4月、経営学部の新学科「マーケティング・デザイン学科」が誕生し、2学科となります。生まれ変わる経営学部の学びの中心は「デザイン思考」と呼ばれる考え方です。デザイン思考とは、優秀なデザイナーが行う仕事の仕方であり、彼らが用いる問題解決の主義、アプローチ、手法、ツールなどをデザイナーでない人も

使えるようにした思考で、新しいことを生み出すために創造的に問題解決をする思考のことです。我々がデザイン思考を重要視しているのはそのマインドです。

デザイン思考の学びは「とにかくやってみる」、「まずはやってみる」ことから学びます。日本の教育は、学生は教室に静かに座り、先生から知識や理論を学ぶことから始まります。その結果、社会で求められている、自分の頭で考え、主体的に行動する力がなかなか育たないと言われてきました。

デザイン思考の問題解決では、「まずはやってみる」。取り組みながらその問題の本質を探り、解決方法を見出す学びを重ねる。多くの失敗をして議論を重ね、方向転換して正しい方向に導く。早期の失敗はアイデアの検証であり、失敗を恐れない挑戦するマインドを学生たちに

醸成することができます。つまり、「教わる」という受け身の姿勢でなく、「繰り返して身につける」、「失敗したら何度でもやり直す」、「実際に手を動かしてやってみる」というデザイン思考のマインドが、主体的に自立して行動できる学生の育成に合致しているのです。

大学、とりわけ経営学部は、創造力とレジリエンス(ストレスを跳ねかえす力)があり、イノベーションを起こせる人材を育て、社会に送り出す義務があります。そのためには、何と言ってもチャレンジしやすい環境をつくるのが求められます。日本は失敗に敏感な文化を持っていますが、教職員も学生同士も失敗を許容する文化が必要であり、教職員も学生と一緒に新しいことに挑戦し、変わらなければならないと考えています。

中高 文女祭開催

10月29日・30日の2日間、駒込キャンパスの中学・高校において「文女祭」が開催されました。今年のテーマは「文女十色」。万全な新型コロナウイルス感染症対策のもと、展示や映像など個性あふれる様々な企画が実施されました。

中学

今年は人数制限もなく、家族みんなで文女祭に参加してもらえるということで、部活動発表や探求活動発表にも力が入っていました。中学生実行委員で運営したゲーム企画も好評で、垂直跳びの高さを競う「ジャンプ力測定」、来場者に好きな端布を選んでもらい缶バッジにしてプレゼントする「端布で缶バッジ」、文京生と元素記号をモチーフにしたキャラクターカードがもらえる「元素記号おみくじ」など、これらは用意していた景品がすべて売り切れる大盛況となりました。

「みんなで作る文女祭」を目指した中学生。家族や受験生に笑顔で説明する姿や「ありがとうございましたー!」の声に、喜びが溢れていました。以下、中学生徒会長青木裕紀子さん(3桃)のコメントをご紹介します。

「昨年度までは学習発表展示が中心だった中学の文女祭でしたが、今年は(生徒も来校者も楽しめる企画)を考えようと、6月から準備を始めました。先生方にも納得していただける企画である必要があるため、高校生徒会の先輩方と一緒に担当の先生方にプレゼンテーションをすることになりました。緊張の中、自分たちのやりたいことを的確に伝えられるのか、先生方から承が得られるのかとても不安でしたが、嬉しいことに全ての企画が通り、そのうち4つが新しい企画でした。初めてのことばかりだったため、夏休みから準備に追われ、当日もあっという間に過ぎてしまいましたが、みんなの力を結集して、充実した文女祭になったことを嬉しく思っています。」

Photo Gallery 文女祭



高校 英語スピーチコンテスト開催

11月9日、「第50回英語スピーチコンテスト」が駒込キャンパスジャシーホールで開催されました。コロナ禍で初めて、会場に高校2年生全員が観客として入りました。島田昌和学院長・理事長の開会挨拶後、生徒会長酒井愛美香さん(2梅)が立派に開会宣言を英語で行いました。司会は、高校2年生国際教養Sクラスに在籍する杉本彩香さん(2橘)、Tクラスに在籍する勝浪梓さん(2藤)、吉田実桜さん(2藤)が務めました。大勢の観客を前にして緊張した雰囲気の中、暗唱部門6名、スピーチ部門6名が素晴らしい発表を披露しました。新学習指導要領となった高校1年生の暗唱部門では、教科書の変更に伴い、暗唱する文章も変わりました。文字が読めない男性が、愛する家族のため、そして働くために学習していくストーリーです。審査員は、アオバジャパン・インターナショナルスクール文京キャンパス校長Mr. Damian Rentoule、セント・ジョンス大学准教授Mr. Jeffrey DuBois、本校講師Mr. Allan Nisbetが務め、審査の結果、右の生徒が入賞しました(敬称略)。

- 【暗唱部門】
- 宮川 紗良(1藤)
 - 杉谷 紗永(1杉)
 - 肥田 木もも(1橘)
- 【スピーチ部門】
- 植野 葵(2藤)
 - 糸 柳亦(2橘)
 - 嶋田 弥弥(1藤)

植野さんは、学院創立90周年を記念して創設された、全てのコンテスト出場者の中で最も優れた発表をした生徒に贈られる「島田賞」も受賞。1位～3位入賞者に清水直樹校長から賞状と楯が授与され、最後に植野さんへ「島田賞」のトロフィが贈られました。植野さんは昨年度もスピーチ部門で1位となっており、記念すべき50回の大会で連覇を果たしました。表彰の後、3人の審査員より講評があり、今回の経験の大きさを語ってくださいました。清水校長の挨拶で白熱した大会が終了を迎えました。

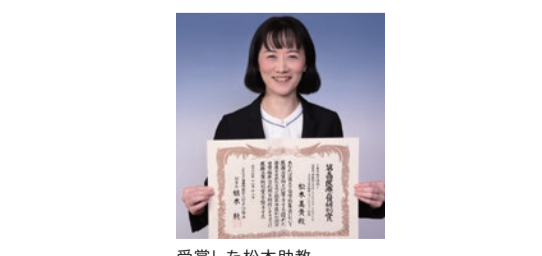


講評を述べるDamian Rentoule校長 集合写真 植野さん

大学 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会より 第5回「医療の質特別賞」を受賞

11月12日、保健医療技術学部臨床検査学科松木美貴助教が、在籍中の順天堂大学大学院医療看護学研究科における研究で、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会より、第5回「医療の質特別賞」を受賞されました。松木助教が「第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会」に応募した演題「革新的なmobile telespirometry systemの開発：フィジビリティ試験」が、医療の質向上に寄与する優れた演題であると評価され、今回の受賞に至りました。これまでの受賞者は、医師・看護師・理学療法士である方が多く、臨床検査技師としての受賞は今回が初となります。

松木助教の受賞コメント
この度は、大変光栄な賞をいただき嬉しく思っております。ご指導いただいた先生方にお礼申し上げます。今後は、医療の質の向上と教育面にも活用ができるよう、研究を続けてゆくと所存です。高校も文京学院出身のため、学生の皆さんの励みになりましたら嬉しいです。改めてお世話になった皆様にご挨拶させていただきます。



受賞した松木助教

学院 教職員表彰授与式 開催

10月22日、長年にわたり本学院に貢献された方々の功績を称える教職員表彰授与式が、本郷キャンパスS館8階にて開催されました。竹内秀和副理事長の司会進行のもと、式が執り行われました。表彰対象者9名のうち6名が出席され、島田昌和学院長・理事長より表彰状と副賞の贈呈、および、式辞が述べられました。そして、島田輝子名誉学院長より、教職員の方々への感謝が述べられたあと、表彰者代表として森宮勝子先生からご挨拶をいただきました。最後は、本学発展に対する表彰者の貢献を称え、会場は大に拍手に包まれました。式が終わると、会場を移動して、BGハウス見学とサロン・ド・ブンキョウでの昼食会が実施されました。昼食会では、終始和やかな雰囲気、参加者同士思い思いに談笑と交流が行われました。



表彰された方々とともに

■教職員表彰受賞者
佐々木賢先生/芝紀代子先生/小池盛雄先生/森宮勝子先生/吉田匡宏先生/本名信行先生/小野寺正宏様/江利川勝枝様/片柳浩子様

大学 新たに12名を文京学院大学大使に任命

10月22日、文京学院大学大使任命式が開催されました。昨年の文京学院大学開学30周年式典で任命された12名に加え、今回新たな12名を対象として、任命式が執り行われました。文京学院大学大使は、本学を卒業したOB・OGを中心に本学をPRしていただく方を文京学院大学大使として任命し、学院創立100周年の成長・発展に貢献していただくことを目的としています。今回任命された12名の大使を、以下にご紹介します。



任命式に参加した7名の大使と関係者

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 川久保 紀子様
卒業 1996年
学部等 経営学部経営学科
現在 花扇/川久保紀子フリースクール | 久武 佳代様
卒業 1995年
学部等 経営学部経営学科
現在 株式会社サニーサイドアップ パブリックリレーションズ事業本部 4局 | 関口 すみれ様
卒業 2002年
学部等 経営学部経営学科
現在 菊寿堂 いせ辰 | 張 淑雲様
修了 2007年
学部等 大学院経営学研究科
現在 株式会社千手Soft |
| 栗原 直子様
卒業 1995年
学部等 短期大学専攻科(保育専攻)
現在 社会福祉法人なないろ いちこの花保育園 | 匠 春香様
卒業 2012年
学部等 外国語学部 英語コミュニケーション学科
現在 株式会社明光ネットワークジャパン 明光アカデミー | 青木 弘太郎様
卒業 2012年
学部等 保健医療技術学部 臨床検査学科
現在 東邦大学 医学部微生物・感染症学講座 | 木暮 美奈子様
卒業 1998年
学部等 経営学部経営学科
現在 ホテル 木暮 |
| 戸口 愛子様
卒業 2003年
学部等 経営学部経営学科
現在 日本赤十字社(2020-2021) 事務局国際部企画課 | 橋本 幸子様
卒業 1980年
学部等 文京保育専門学校 文京保母専門学校
現在 学校法人美保野学園 みほの幼稚園 | 渡邊 栄様
卒業 1987年
学部等 短期大学保育科
現在 一般財団法人日本婦人衛生会 第一保育園 | 甲田 祐樹様
卒業 2010年
学部等 保健医療技術学部 臨床検査学科
現在 東京医科歯科大学病院 検査部 |

インカレサークル 活動紹介

大学の学生2名が「東洋大学管弦楽団」で活躍中 年2回の定期演奏会で演奏を披露

インカレ団体のオーケストラサークル「東洋大学管弦楽団」に所属する、本学の池田舜亮さん(経営学部4年)と安田隆人さん(外国語学部3年)が、年2回の定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。今年の6月には和光市民文化センターサンアザリアで開催された「第89回定期演奏会」に奏者として参加し、演奏を披露しました。学生の活動紹介コメントを以下に掲載します。



定期演奏会本番での演奏シーン

池田舜亮(経営学部4年)

私は4歳からチェロを始め、今年でチェロ歴18年目になります。東洋大学管弦楽団では、チェロ首席をしております。この楽団に入るまでは、ソロ演奏のみで、オーケストラなどでの合奏はほとんどしたことがありませんでした。しかし、自分のスキルを上げたいと思い、3年生でこの楽団に入りました。本当はもう少し早い段階で入団する予定だったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、しばらく活動ができませんでした。入団してから、一度演奏会が中止にもなりました。この楽団に入ってから、地元の福岡でのオーケストラに参加したり、先輩と一緒に自分たちでつくったオーケストラでの演奏会を企画したりもしています。

そして、今年の6月17日、演奏会を行うことができました。島田理事長や、職員の方々、友人、家族が来てくださり、たくさんの感想を聞くことができました。現在は次回以降の定期演奏会に向けて日々練習を行っております。

安田隆人(外国語学部3年)

私は昨年の夏にパーカッション(打楽器)初心者で東洋大学管弦楽団に入団しました。選んだ理由は、楽団が徐々に定期演奏会を行うという知らせて見て、自分も演奏したいと思ったからです。最初の定期演奏会では、トライアングルとスネアドラムパートになりました。しかし、コロナの影響で、残念ながら中止になりました。

2022年度になってからは、現役パートが自分しかおらず、何度もパート変更が行われ、最終的に「運命」のティンパニをやることになりました。初心者ながら最初は「絶対にできない!」と言って、何度も逃げ出したくなり

大学 釜石市主催「海と希望の学園祭」を本学が後援 経営学部の2年生12名が企画・出展

11月5日～6日の2日間、岩手県釜石市で初イベント「海と希望の学園祭」(主催:釜石市)が開催され、本学が後援を行いました。

本学は、以前より釜石市と連携し、東日本大震災復興支援や地域交流に繋がる様々な取り組みを実施しており、2020年2月には、地域社会の発展・人材育成及び学術の振興に寄与することを目的とした包括連携協定を釜石市と締結し、現在に至るまで多くの接点を持ってきました。そのような経緯から、今回、本イベントの後援を行うとともに、「プレーメンズ2022釜石プロジェクト」として経営学部の2年生12名が企画・出展を実施しました。イベント当日は、国立大学東京大学大気海洋研究所と共同制作した「三陸海のアニメーション」の上映や、岩手県立釜石祥雲支援学校の児童と一緒に作り上げた大型オブジェクト「およぐさかなモバイルライト」の展示で会場を彩りました。また、紙を自由に切り貼りして作る「海のいきものかんむり作り」や、三陸産の経木でつくる「魚のモバイル作り」といった参加費無料のワークショップの実施、商品企画から制作・販売まで学生が行うチャリティショップの出展でブースは賑わいを見せました。チャリティ販売での売上全額は、東日本大震災復興支援団体に寄付される予定です。



会場設営や展示物の準備を行う学生たち

学生コメント 杉本優芽(経営学部2年)

私たちは、地域交流を通じて釜石市への社会貢献へと繋げることを目標としてこのイベントに参加しました。来場者が、笑顔で楽しんでいる様子を見ることができたり、私たちの活動に興味を持って応援して下さいたりと、実際に現地へ足を運んで地域の方々と関わることで、私たちの活動の意義ややりがい、そして改めてこれから釜石市の皆様への力になれるよう邁進していきたいと肌で感じることができました。とても貴重な経験をさせていただいたので、今後の活動に活かしていきたいです。



企画・出展に奔走した12名の学生



ワークショップに参加する親子とサポート学生

大学 「文京学院大学・淑徳大学共催公開講座2022」開催

10月1日と22日、「文京学院大学・淑徳大学共催公開講座2022」がオンラインで開催されました。今年度は共通テーマを「心と身体:食う・寝る・遊ぶ」とし、本学は10月22日に、人間学部児童発達学科須藤佐知子助教が「楽しく遊んで、ぐっすり寝るためにできること」をテーマに登壇しました。

当日は、ぐっすり寝るために知っておくべきこととして、まず睡眠に関与するホルモンの働きなど身体の仕組みについて、子どもの特徴や加齢による変化も踏まえて解説されました。さらに、人間は体温が下がると眠くなるため、特に昼間の屋外での運動や食事、入浴で体温を上げておくと、体温の落差が大きくなり、寝つきやすくなることも説明されました。

また、子どもの場合は楽しく遊ぶことが重要なため、今回は参加者が子どもと楽しく遊べる「手遊び」と「動物体操」について、動きをその場で覚えてもらえるよう、須藤ゼミに所属する3年生4名の協力のもと実演も行われました。

オンラインでの画面越しではありましたが、合計18名の参加者と楽しく身体を動かすことができました。



オンラインで解説・実演する須藤助教(左)と須藤ゼミ3年生(右)

大学 TJUP公開講座×BGUウィークエンドフォーラム 「毎日楽しく介護予防Part.2～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～」開催

10月1日、ふじみ野キャンパス(対面会場と配信)をメイン会場に3ヶ所のサテライト会場をオンラインで結び、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)地域交流委員会公開講座&文京学院大学ウィークエンドフォーラム「毎日楽しく介護予防Part.2～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～」が開催されました。

当日は、十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科古明地夕佳准教授と、本学の保健医療技術学部作業療学科大橋幸子学科長・教授が講師として登壇しました。前半の古明地准教授によるミニ栄養講座の後、本学の大橋教授の講座が始まり、作業療学科関川陽平助手と4年生18名のデモンストレーションで、各会場の参加者が楽しく体を動かしながら介護予防トレーニングを体験し、最後には大橋教授のゼミが監修した認知症リハビリを啓発するリーフレットの配布も行われました。

対面、オンライン、サテライト3会場を合わせて合計160名の方が参加し、短い時間ではありましたが充実した公開講座となりました。



講師として登壇した大橋教授



講座で身体を動かす参加者とサポート学生



関川助手(前列)と4年生のサポート学生

幼稚園 親子企画開催

文京幼稚園・ふじみ野幼稚園では、万全な新型コロナウイルス感染予防対策のもと、親子で楽しめる企画を開催しました。

文京幼稚園 親子遠足

11月10日、年中親子61組で北区にある飛鳥山公園にて遠足を実施しました。自然豊かな広い公園内にある遊具コーナーと広場で親子活動を行いました。

前半の時間は、公園内の遊具コーナーで過ごしましたが、大きなお城の滑り台が人気で、歓声をあげながら何度もチャレンジする姿が見られました。後半の時間は、親子でふれあい遊びとクイズラリーを実施。クイズは「公園内にある機関車のナンバープレートの数字は？」等、公園内の遊具に因んだ問題が出題されました。回答するには、出題された遊具を次々巡って行くと答えが分かるシステムです。クイズを完了するのに25分程かかるのですが、親子で楽しむ様子だけでなく、集中して取り組む子どもたちの姿に成長も感じられました。

コロナ禍の影響から、年中組は入園して初めての親子遠足体験でした。秋晴れの下、親子でふれあいながら楽しむ姿に、あらためて遠足の良さや大切さを実感した一日でもありました。

【Photo Gallery】



ふじみ野幼稚園 親子製作

ふじみ野幼稚園の「親子製作」は、親子で製作することを楽しむ時間を幼稚園側から提供しようという趣旨で実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、昨年までの2年間は、製作のレシピを配布し、ご家庭で親子製作を楽しんでもらっていましたが、今年は3年ぶりの開催(8月・11月)となりました。

11月5日に実施された親子製作では、自由参加ではありましたが、約7割の方が参加してくださり、スライム作りをしました。水の入っているコップに食紅を入れ、それをさらに洗濯のりの入っているカップに入れます。最後に、魔法の水(ホウ砂を溶いた水)を入れてよくかき混ぜると出来上がりです。「何色がいいかな」「どのくらい混ぜると固まるのかな」と親子で相談しながら製作する様子が見られ、それを2回作りました。2回繰り返すことで、「次はこんな風になりたい」という思いを持って取り組めたようです。参加者は出来上がったスライムのぷにゅぷにゅの感触を楽しんだり、太陽に当てて透ける様子を楽しんだりしていました。ジップロックに入れたスライムのお土産を手にして、親子共々笑顔での降園となりました。

【Photo Gallery】



tomochan

第87回

画:美術部(高校)Yana

